

パリで10年間フランスの鉄道労使関係などについて研究した後、フランス福祉国家の形成史を主な研究テーマとしています。とりわけ最近では、第一次大戦後の家族手当と社会保険の歴史的展開に関する多くの一次史料を収集し、少しずつ論文として発表しています。しかし、フランスの特殊性を解明するためにも福祉国家形成の国際比較（特に英独やスウェーデンとの）をもテーマとしています。

### 1. 専門演習の目標

本ゼミでは、往々にして切り離されて論じられる「労働と福祉とジェンダー」の諸問題を統一的に把握することを通じて、一方で各国の社会問題を比較研究すると同時に、他方で変容しつつある現在世界を歴史社会的に理解することを目指します。というのも、こうした空間軸と時間軸による研究方法によって、グローバリゼーションの進展する今日の世界におけるそれぞれの福祉国家の特徴を解明しようと考えられるからです。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

今後の日本にとって少子化から脱却できるかどうかは経済や社会の様々な側面に大きな影響を及ぼす重大な問題ですが、世界で最も早くから少子化の進んだフランスでは2008年に合計特殊出生率が2.02に達し、現在のヨーロッパで最も高い水準にあります。そして、そこにはフランスにおける「労働と福祉とジェンダー」のあり方が相互に密接な関係を保ちながら大きく貢献しています。とりわけ週35時間労働と充実した児童福祉サービス、家庭内でのジェンダー平等に注目する必要があります。これに対して2008年と2009年に合計特殊出生率が1.37の日本では、過労死・過労自殺に至る「超」長時間労働と待機児童に象徴される貧弱な児童福祉、および家庭内に留まらないジェンダー不平等が相変わらず是正されていません。本ゼミでは、このような「労働と福祉とジェンダー」の視角からの各国社会問題の比較研究と、それらの歴史的背景の探求を課題とします。

### 3. 授業の進め方・内容

前期セメスターでは「労働と福祉とジェンダー」に関する基本的文献（日本語ないし英語）を精読することから始めて、ゼミ生の共通認識を深めるとともに各自が研究テーマを見出し、それを探求することができるように

します。後期セメスターでは、各ゼミ生の研究テーマに関する個別のプレゼンテーションをしてもらい、世界の様々な国を対象とした報告と議論の中で国際比較が可能となるようゼミを進めていく予定です。

### 4. 必要とする知識

「労働・福祉・ジェンダー」に関する講義を受講すること、また日々マスコミなどで報道されている今日の世界の社会問題についての基礎的な知識と世界史への理解が必要とされます。

### 5. 関連する分野・科目・知識

国際社会政策論、労働社会学、社会福祉論、ジェンダー論、現代史など

### 6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

テキストはゼミ生と協議して決めます。参考書として、パット・セイン著、深澤和子・深澤敦監訳『イギリス福祉国家の社会史』（ミネルヴァ書房、2000年）、丸尾直美他編『出生率の回復とワークライフバランス』（中央法規出版、2007年）、J. Lewis (ed.), *Work-Family Balance, Gender and Policy*, Edward Elgar, Cheltenham, UK・Northampton, MA, USA, 2009など。またILOやOECDなどの英文報告書も検討します。

### 7. 独自に付加する選考方法

特になし

### 8. 受講生に望むこと

世界の各国と比較するためには日本語文献のみならず、その国の言葉で書かれた資料を検討することが必要ですので、外国語（少なくとも英語）の嫌いでない人に参加してほしいです。